

2022年12月16日

『みんなのスポーツ』12月号 (No.489) から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の12月号は「**総合型クラブの新しいかたち**」の特集号です。

私が今月号で感じたこと・参考になる点、気になったことなど3点記載します。

1. 巻頭言 まちづくりと総合型クラブ 奈良県スポーツ推進委員協議会会長

今回の特集で取り上げられている、総合型クラブとまちづくりは目指すところが一つ、「人づくり、地域を作る」と会長は考えている。地域を取り巻く課題として、少子高齢化の進行、人口減少社会の到来、世帯構造の変化、地域のつながりの希薄化などが挙げられます。加えて多様化、複雑化、肥大化する市民ニーズを減少する社会関係資本（ヒト・モノ・カネ・ネットワーク）で回していくには自ずと限界がある。

地域全体で意見を出しあい、連携・協力する“横の繋がりを持つ組織”をカタチづくるのが大切です。これによって「自分たちの地域は自分たちが作る」機運が生まれ、「地域力」が高まると会長は述べています。私も全く同感です。

「まちづくり」も「総合型クラブ」もできたら終わりではなくスタート。総合型スポーツクラブの資格は取得していますが私は関わっていません。地域の活性化には関わっています。地域のいろいろな立場の方と話し、仲間に巻き込み出来ることを今は積み上げています。

2. げ・ん・き 活動日記 . . . 推進委員の活動紹介

56歳活動歴27年の方、「しない」ではなく「してみる」ことで**必ず得るものがある**という記事です。この方の街では3年ぶりに体育祭を開催。コロナ禍で異を唱える意見もあったが、村長は中止が続くことを危惧されるため開催に。スポーツ推進委員以外に20名募集や徹底して感染症対策、種目も試行錯誤を繰り返し、リハーサルを重ね実施。

終了後には皆さんから、感染症対策をしっかりとっていたことで、安全・安心が確保され、体育祭を楽しむことができた嬉しい評価をいただいたとの事。体育祭の成功がコロナで二の足踏む地域活動の背中を押すことにつながればと考えておられる。

子育て世帯の積極的受け入れや移住者も増え、スポーツ・交流の機会も行っているとの事。ポッチャなどは小規模・多頻度開催で高齢者や親子ずれの参加もあり好評。

With コロナといわれて久しい昨今、「しない」ではなく、しっかり感染症対策を講じて行事を行うことで得るものは必ずあると述べておられる。

3. 事務局だより スポーツ推進委員「組織調査」から

先般、都道府県及び市町村に対し、スポーツ推進委員に関する「組織調査」があり速報版？として興味深い記事がありました。以下はその中から気になる事項を記載致します。

(1)スポーツ推進委員の選出母体は？

| 順位 | 選出母体 | % |
|----|---------------------------------|------|
| 1 | 町内会・学区等地域組織 | 55.0 |
| 2 | 教育委員会・主管課 | 18.1 |
| 3 | スポーツ協会など団体 | 8.5 |
| 4 | 一般公募 | 7.4 |
| | 理学療法士団体、障がい者団体 地元大学、スポーツ推進委員 | |

横須賀市と同じ方法は全国で55%です。教育委員会・主管課からの1本ずりは三浦市です。逗子市や葉山町はスポーツ団体からの推薦です。全国大会、関東大会などで他市の方に質問、常任理事会や理事会の時にも早めに行き情報収集しています。大学生や公募を取っていると話す方が増えています。スポーツ推進委員もなり手がなく、この方たちに委嘱すると責任感や意識が高いとの理由を耳にします。

(2)年齢構成？ 職業？

以前、「みんなのスポーツ」に出ていた委員定年がある自治体は7%くらいでした。これを反映しているようで年代は幅広い。現役時代の55～60歳代が最も多い。

| 年代 | | 職業 | |
|---------|-------|----------------|-------|
| 年代 | % | 職業 | % |
| 20歳未満 | 0.17 | 会社員 | 44.13 |
| 21歳～30歳 | 2.64 | 無職（パート・退職者・主婦） | 18.54 |
| 31歳～40歳 | 8.25 | 自営業 | 13.29 |
| 41歳～50歳 | 22.62 | 教員除く公務員 | 6.81 |
| 51歳～60歳 | 30.48 | 学校教職員 | 3.70 |
| 61歳～70歳 | 26.90 | 介護福祉関係 | 2.11 |
| 71歳～80歳 | 8.48 | 医療関係者 | 1.58 |
| 81歳以上 | 0.46 | 学生 | 0.27 |

今回の調査でもなり手不足を挙げる市町は多くあったと記載されています。人口減少や少子高齢化は如何ともしがたい現実です。将来を見据えた「推進委員の在り方」が求められていると結んでいる。

今月号は3つの事について記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて（行動）みませんか？

*本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合とこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど感ずると思います。一緒にやってみましょう！

以上